



いぶき
ゆき
か
り
子



●いふはいふはいふの とらはいふはいふの

くはのふも

わかづはとて俗あふこゆらのるや答締シテの二さ成りあら

や通どしてしなからけはふはあふ人のあふらめや

除目一第一の固えを

除目チモクある第一より受給の固は上中トありその中よりと老

長の人と上固の受給と下固を貴殿也

はは名のあふらぐく結の流屏風中まのくまよりわさしてまはらんぜはをけふ

のみじうおそくせしまるひらりか。

江次身ま仁壽三年十一月十三日格改定メテは十九日ニ至ル廿一日



三ヶ夜也云々

なる根源小仁壽殿の話を言ゆゆして此帳のうらうら色
て。南の窓乃同ふ。又南の机とあり。公像とあり。公前にお香
花の匂とあり。むかし〜地獄に居る屏風とあり。初夜は夜
中夜。各此導師うた。ゆめが〜人々を〜む。うげつら
りあり。下畧

仏名経云。若有善男子善女人。因是三世三劫諸仏世尊。各号
歡喜信樂ゲラス云々

栄花の語云々。十二月十九日。おひらぬ。ゆめ公とてくらぐ
の娘は。此屏風を〜う〜う〜う〜目とあり。ありけり

是は地獄のありとゆめを〜屏風にて。二母の公とて〜あり。

海彦す〜とあり。

あまのよ〜
雨強〜
道方少納言〜
将兵佐〜

職原補任云。源道方。正暦六年正月十一日。補少納言。従五位上。
同補任云。源海彦。長保二年正月廿七日。阿波守。權守。従五位下。
道方。宇多天皇の末。正二位左大臣重信の子。母。師補の女。
海彦も。道方の弟。母。參議安親の女。

清少の局

清少の局清少の局は、中宮の御座あり也。

わがふしりふおわらうしてあはれん。よるおほもくもくあはれん。

禁秘抄云夜御殿四方有妻戸南大妻戸一間也帳同清涼殿

東枕也御座敷也御枕有二階奉安置御叙神盃皆有覆

種芳也御叙東南帳四角有燈又帳東北敷也為女房座

あけのつららうとらうせしけりてゐんぞとけぞ

道隆院後の記。又宮中御座ありとわらう。はかり御座り。

あふとつてあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

清少を女房と云ふはあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

清少の局

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

あふとつとあふとつとあふとつとあふとつとあふとつと

廬山草堂雨夜独宿寄牛二李七庚三十二員外

蘭省花時錦帳下 巫山雨夜草堂中

業省本謂太政大臣近代弁官謂蘭省

毛の下月影彩珠の帳ろあけりふけあふもよみおぼせお天何ぞ

朝廷はほりほみさふよ信す思ひ体の一なり

中まの夜寝あらしのちあれや

此本はほり

真字

ゆんあふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

あふり

きりやあるのまゝにやむはむと云ふは、かたがは

のたまふに

あつたつた又あつたとして、かたがは

のたまふに

をあげてあやしいは、かたがは

此中の清少の中へ

くろく、かたがは

上の句

中ね、かたがは

のたまふに

のたまふ、かたがは

清少

源中の句

のたまふ、かたがは

清少の句

のたまふ、かたがは

清少

のたまふ、かたがは

上局の句

なり、かたがは

同日、十一月十一日、内にて、公卿及上人、宣讀せしむと云

教隆、詔官召者、秋除目也、号、京官、春除目者、号、縣召、各拜任之

輩、夏、春者、太政官、廳、秋者、於、外、託、廳、而、仰、之、仍、称、官、召、月、也

この根源、よ、あ、

清少の句

いで、かたがは

清少の句

よ、かたがは

清少の句

は、かたがは

清少

の、かたがは

則光の

の、かたがは

則光の 大さうぶちまわで
きもちちるふべしとおもひまのあつまひ

則光は中よる人くしむる。兄妹とすまはるは
よるやまの兄才あひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ
あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

職原ニ少將 相當正五位下五位殿上人中為譜第公達者仕之

叙位時去職三位少將者執柄息常被仕之亦藏人頭時為

是古例也亦辨官無之公達之中有才名者事也

清少のあつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ
あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ
あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ
あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ
あつまひのあつまひのあつまひのあつまひのあつまひ

西の京是平安城のありき也。西の大なる海ありては

通ふありては。北の海ありては。是大内皇のあり也。

清少の肩を

清少内のある躰也

けがねとありては。清少のありては。清少のありては。

清少のありては

清少のありては。清少のありては。清少のありては。

清少のありては。清少のありては。清少のありては。

清少のありては。清少のありては。清少のありては。

清少のありては。清少のありては。清少のありては。

清少のありては。清少のありては。清少のありては。

あ

徳中納言俊蔭が孫也。うづらののうづらふ中將宰相中納言

とてありし人也。やうやうな琴曲とほめては。人

魯

は。前も。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

仲忠うわ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

琴。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

うづら。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

Compendium

摘要

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

この書は、*Compendium* の要約である。...

Handwritten note at the bottom left of the page.

以事者妙理并之輔而觀音之化也。大已貴者妙理并之彌而西刹教
主阿弥陀也。号之白山三所推現也。

神名帳云加賀国石川郡白山比咩神社云々

まてうの山けりり。或部の巫忠陸使きてふたふた。ふたの所にて
のあざりふ。ふたの山けりりせけぬあふんと。おあいのつがよとは

らせけへ事。まてう。

今義解曰東宮謂太子所居也。左傳云東為蒼萬物生長在東西

為權萬物成就在西。是君在西宮太子在東宮

宮の東宮ハ三條院也。於泉院ホ二の皇子也。其母贈皇太后云起子と

ト云。太ト云。皇家のホ一ハ女子也。このみど貞親元年正月三日ふ生

寛和二年七月一日東宮なるをせけ。あ。日。元服。治。年。上

寛弘八年三月即位。而母ハ大らふ。あし

弘徽殿なるをけりり

采花物語の系口云。天子一條院弘徽殿。如。兩院。太。取。太。上。公。季。公。女

藤氏。譜云。實成親賢信。寛如。源。あ。の。妹。也。可。考。弘。十。二。月

十六日出家。云。弘。え。年。七。月。崩。す

京極どのもけりり。を。け。へ。孝。あ。と。ん。

大らみ。太。取。太。上。の。光。の。お。と。れ。九。条。の。の。太。取。太。上。の。位

にて。七。年。は。信。守。の。位。を。得。す。正。暦。三。年。六。月。十。六。日。よ。う。を。け。り

す。此。譯。恒。公。と。す。是。考。是。京。極。の。元。祖。也

節侯 あまのこ

七日乃中せるのありし あまのこ ちかみつ あまのこ

花畑のあまのこ

わらひあがり あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

園座のもや 孫柄 あまのこ 圓草 提也 あまのこ

七食

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

折櫃 あまのこ 本とあひ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ ちかみつ あまのこ

雪の

屈の

雪の屋禁秘抄有。この雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋に

雪の屋禁秘抄有。この雪の屋に

雪の

雪の屋に

自五位位以上給亦記宣旨又云以真廢以五位記式給諸大夫
上位記文位給

内宣方とて。花人奉勅の宣旨を。花人の抄事。天子の勅紙
花人記事て。その旨を直に宣下する。内宣方といふ也

大食のあゆみのつらひあがり。花の
大食のあゆみのつらひあがり。花の
大食のあゆみのつらひあがり。花の

大臣の大食は。藤甘栗の使とてある。花人奉勅あり。大臣の
大食とて。大臣の使とて。花人奉勅あり。大臣の

藤氏。大臣用朱器甚盤。其日。行由。職。是。非。日。日
藤氏。大臣用朱器甚盤。其日。行由。職。是。非。日。日

藤氏。大臣用朱器甚盤。其日。行由。職。是。非。日。日
藤氏。大臣用朱器甚盤。其日。行由。職。是。非。日。日

西宮記。結。藤甘栗。予。以。花人。為。使。追。花。二。五。位。人。衆。樹
西宮記。結。藤甘栗。予。以。花人。為。使。追。花。二。五。位。人。衆。樹

為。使。向。下。家。藤。四。壺。大。二。甘。栗。子。十。六。上。六。中。八。已。上。盛
為。使。向。下。家。藤。四。壺。大。二。甘。栗。子。十。六。上。六。中。八。已。上。盛

抄。下。搭。之。向。大臣家。下。裏。花。子。名。之。の。花。家。略。之。
抄。下。搭。之。向。大臣家。下。裏。花。子。名。之。の。花。家。略。之。

廿。周。礼。天。官。女。湯。者。湯。也。掌。叙。湯。王。之。委。寢。註。也。湯。者。八
廿。周。礼。天。官。女。湯。者。湯。也。掌。叙。湯。王。之。委。寢。註。也。湯。者。八

必。作。女。湯。置。之。於。湯。代。為。是。替。也。代。置。湯。代。也。今。仙。洞。湯
必。作。女。湯。置。之。於。湯。代。為。是。替。也。代。置。湯。代。也。今。仙。洞。湯

金。非。大。臣。女。湯。替。湯。代。也。
金。非。大。臣。女。湯。替。湯。代。也。

一条院の弟一乃皇子。敦康親王の御子也。母を后女定
 子と云ふ。叔父小内大臣伊周中納言隆家郷上達部也
今上の御子也
 后上人を御つづか。御子も御つづか。あそびせも一人。御子
 おひせりや御つづか

清少納言旁註卷第五

